

中デステロールの増加は認められなかった。またコレステロールについてもMDと対照群との間に有意差はなかった。Pseudomyotonia を呈した中毒性ニューロパチーの1例でも、デステロールは検出されず、コレステロール値も正常範囲内であった(表1.)。

(表1.) 血漿中デステロール、コレステロール

	例数	平均年齢	デステロール	コレステロール (mg/dl)	
			増加例数	M ± SD	
筋強直性ジストロフィー	6	35	0 / 6	188.0 ±	33.0
神経学的対照	6	42	0 / 6	167.3 ±	22.6
正常対照	7	41	0 / 7	186.5 ±	25.8
Pseudomyotonia	1	26	0 / 1	190.0	

〔考 按〕

Wakamatsu ら 1970 は Frantz の比色法によってMDではデステロールが 13.4 ± 4.6 mg/dl で、対照群の 5.8 ± 2.1 mg/dl に比し有意に高値であると報告した。一方 Andiman ら (1974)は、MDの血清にも赤血球膜にもデステロールの蓄積はみられないと報告している。比色法によった場合、ステロイドやその他の因子が関与している可能性が考えられる。われわれの検索ではデステロールが有意に増加している症例は1例も見出し得なかった。コレステロールについても Wakamatsu らは有意差があると報告したが今回の検索では全く有意差は認められなかった。

10.筋強直性ジストロフィー症における LHRH 試験及び
diphenylhydantoin 投与時の TRH 試験について

弘前大学医学部第3内科

松 永 宗 雄 成 田 祥 耕
齋 藤 広 志 武 部 和 夫

筋強直性ジストロフィー症 (Myotonic dystrophy、以下MD) には種々の内分泌学的異常や耐糖能異常などを合併することは周知のところである。われわれも本研究班の分担研究として、本症のアルギニン負荷試験やTRH試験について既に報告した。今年度はLHRH (Luteinizing hormone releasing hormone) 負荷時のLH及びFSHの反応について検討を加えた。また、

ミオトニアに対して用いる diphenylhydantoin (アレビアチン) の投与によって甲状腺機能低下を来すことがあるので、アレビアチン投与中のMDにおけるTRH試験の変化についても検討した。

〔対象と方法〕

LHRH試験は今回は男性例を対象とした。MDの男性4例(平均年齢 39.3 才) を健康男子10例(平均年齢 33.8 才)と比較検討した。早朝空腹時に安静を保たせ、15分間隔で2度採血して前値とし、LHRH 100 μ g を静注後15、30、45、60、75、90、120 分にそれぞれ採血した。LHおよびFSHの測定は「第一」のキットによる2抗体、radioimmunoassay 法を用いた。女性例についても検索中であるが、まだ1例のみしか結果を得ていないので本報告では触れない。

アレビアチン投与前後のTRH試験は13才、23才、37才の男子にそれぞれ4ヶ月、5ヶ月、4ヶ月間投与時点のものを投与開始前のものと比較した。3例とも投与前の甲状腺機能は正常であった。早朝空腹安静時に15分間隔で2度採血後直ちにTRH 500 μ g を静注し、15、30、45、60、90、120 分後に採血した。TSH測定はHTSHキット「第一」による2抗体 radioimmunoassay 法である。

〔結 果〕

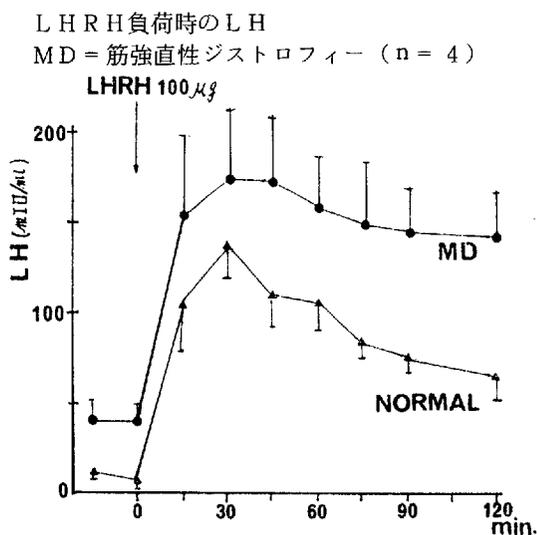
LHの前値はMDの4例とも高値で、LHRH負荷によるLHも4例中3例で高反応を示した。4例の平均値でも、前値、負荷後とも有意の高値を示した(図1)。

FSHの前値は4例中3例で高く、LHRH負荷後の反応も4例中3例で高反応であった。4例の平均曲線もLHと同様に前値、負荷後の各採血時とも有意に上昇していた(図2)。

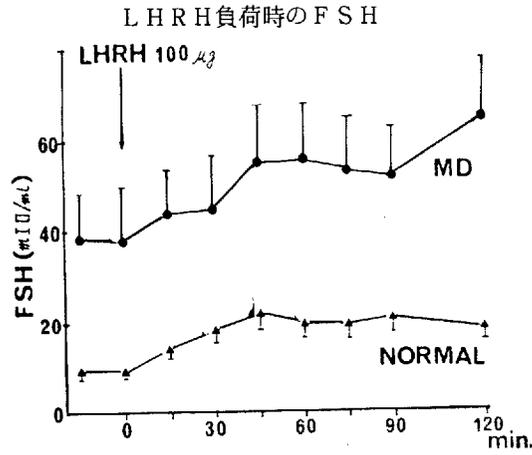
アレビアチン投与前後のTSHの基礎値は3例ともに投与後の方が高くなっていった。TRH負荷後のTSHの反応は3例中の1例(23才)が5ヶ月のアレビアチン投与によって、有意の高反応を呈した。他の2例は4ヶ月間の投与時点では投与前と比較して有意の変動を示さなかった

(表1)。

(図1.)



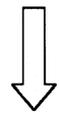
(図 2.)



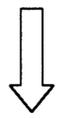
(表 1.)

Diphenylhydantoin 投与前後の TRH 試験

症例	年齢・性		前値	15分	30分	45分	60分	90分	120分
症例 1	13 ♂	前	3.9	18.0	22.0	21.0	20.0	17.0	13.5
		後	5.4	23.5	23.2	20.8	21.2	16.9	16.6
2	23 ♂	前	4.0	9.0	13.0	12.0	14.0	9.8	8.8
		後	13.0	25.5	25.5	30.0	33.0	24.0	26.0
3	37 ♂	前	2.8	6.0	6.2	5.1	5.1		4.4
		後	4.0	5.9	6.5	6.6	6.4	5.4	5.1
正常値 (n = 9)		M	4.7	14.2	16.3	14.9	12.8	10.1	7.7
		± SE	0.6	2.0	1.6	1.4	1.7	0.9	0.6



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



筋強直性ジストロフィー症(Myotonic dystrophy、以下 MD)には種々の内分泌学的異常や耐糖能異常などを合併することは周知のところである。われわれも本研究班の分担研究として、本症のアルギニン負荷試験や TRH 試験について既に報告した。今年度は LHRH(Luteinizing hormone releasing hormone)負荷時の LH 及び FSH の反応について検討を加えた。